

通商国家の酒

泡盛の起源は完全にはわかっていませんが、通商国家であった琉球王国の歴史を鑑みても、おそらく様々な国からの影響から生まれたというのが妥当です。以前は、（味の類似性から）タイのラオカオという蒸留酒と泡盛を結びつけて考える説が支持を集めていましたが、別の研究では泡盛の起源として中国の福建省で作られる蒸留酒を挙げており、この説は琉球王国の交易の歴史とも符合します。中国起源説を裏付けるさらなる根拠は、注いだ時に発生する泡の数で泡盛のアルコール度数を測る習慣です。この方法は伝統的に中国の蒸留酒に使われてきたものです。また、この習慣は「膨らむ泡」を意味する「泡盛」の名前の由来である可能性があります。

中国からの訪問者や琉球へ漂着した朝鮮の人びとの記述や薩摩藩の武士が残した記録から、泡盛造りは15世紀末までには始まっていたことが伺え、このことから泡盛は日本最古の蒸留酒ということになります。泡盛についての記述の初出は、1671年に琉球王国の尚貞王（1645–1709）が將軍徳川家綱（1641–1680）に対して贈った贈呈品を約束する書状で、この贈呈品の中に泡盛が含まれていました。1719年には、新井白石（1657–1725）という有名な儒学者が泡盛造りの過程について書いており、その中に泡盛は「7年間密封」した後に飲まれるとあります。これは、古酒という年代物の泡盛についての初期の記述かもしれません。